

学校保健活動・学校経営・学校運営に関する実践報告 ～ 資質向上・健康教育推進の人材育成を目指して ～

目的 Purpose

東京都教育委員会教育研究推進団体支援事業における推進団体として、学校保健活動及び学校経営、学校運営、学校教育に関する研究・研修を行い、会員の資質向上を図るとともに健康教育推進の人材育成を図る。

研修報告 Training report



2023.6.24

校内支援体制構築のための 学校組織マネジメント

1

東京学芸大学 教職大学院 准教授

増田 謙太郎 氏

- 校内委員会の機能は「把握、検討、評価、立案、仕組み作り」がある。
- 校内委員会とケース会議を混ぜると会議は成立しない。
- 特別支援教育コーディネーターの役割は、今ある資源（リソース）を有効活用するために、各部を調整する。
- 個別の教育支援計画は、「大人」を主語にして書くこと、個別の指導計画は、「子ども」を主語にして書くことと良い。
- 合理的配慮の視点は、教員の授業改善につながる。



2023.8.7

持続可能で元気な学校づくり ～任せるほど上手くいくミドルリーダーの育て方～

2

学校法人 湘南学園 学園長

住田 昌治 氏

- 持続可能で元気な学校のイメージは、人それぞれ異なる。子供は有能な学び手、学習者中心の学びを作る教師のあり方の変化。ティーチャーからファシリテーター、ジェネレーター役目を担う。
- リーダーに必要なファシリティ能力は、自分と他者との対話を行い、他者との違いを知りつながること。
- 「モチベーションを上げるリーダー」とはビジョンを語る、感謝する、全身で傾聴する、称賛する、任せる、承認する。



情報交換会

研修会後に校種別講習会・情報交換会を開催した。第1回「OJT」、第2回「学校保健委員会」というテーマについて各学校での取組を共有した。各校で課題に対して様々な取組を行っており、実践と結果を含めて共有することで、今後の学校経営や学校保健において活用できるアイデアを学ぶことができた。



2023.10.14

行動変容のための 説得的コミュニケーション

3

東京大学大学院医学系研究科
医療コミュニケーション学分野 准教授
大学病院医療情報ネットワークセンター
副センター長 奥原 剛 氏

- これまでの欠如モデルのヘルスコミュニケーションから行動変容のコミュニケーションへ変化が必要である。
- メッセージ疲労を軽減するために「飽きさせない工夫」が必要である。
- 「人を動かすヘルスコミュニケーション10原則」を使うと効果的である。



2023.12.2

教えることを教えるために ～応用行動分析学をもちいた スーパービジョン～

4

チルドレンセンター代表
ペッパーダイン大学院 准教授
大田区支援アドバイザー 松田 幸都枝 氏

- 問題行動を起こさせにくいクラス運営のポイントとして教室をきれいにする、授業準備、授業を絶対に止めない、机間支援等がある。
- 行動の機能は、注目（他者からの関心）、モノ、回避、感覚の4つに分けられる。
- 叱責よりも賞賛を与える。



成果・課題 Achievements/Challenges

成果：学校経営や学校運営、組織マネジメント、健康教育について見識を深め、学校経営を担う管理職、また、学校保健を主とした学校運営を担う養護教諭としての資質向上を図ることができた。

課題：所属する組織において共通する課題を解決するために今後も研修・研究をより一層充実させる。

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都学校保健経営研究会	
代表者	所属	葛飾区立細田小学校	
	職氏名	校長 矢吹 理恵	
	連絡先	03-3672-7125	
事務局	所属	港区立六本木中学校	
	職氏名	校長 松島 智子	
	連絡先	03-3404-8855	
団体ホームページ		URL	二次元コード
		https://kanna.promole.net/	



研究会 構成 Composition

本研究会は、養護教諭経験のある管理職・学校保健に関心のある管理職・主幹教諭（養護教諭）・主任養護教諭・養護教諭・その他学校保健に関心のある教職員・医療関係者をもって構成する。

